

小学校

平成 11 年 度

教育研究員研究報告書

図画工作

東京都教育委員会

平成11年度

教育研究員名簿(図画工作)

地 区	学 校 名	氏 名
新 宿 区	落 合 第 四 小 学 校	本 間 基 史
江 東 区	第 二 辰 巳 小 学 校	一 文 字 裕 子
世 田 谷 区	三 軒 茶 屋 小 学 校	◎ 宮 本 眞 智 子
板 橋 区	北 野 小 学 校	○ 玉 置 一 仁
練 馬 区	旭 町 小 学 校	山 崎 圭 一
足 立 区	皿 沼 小 学 校	佐 藤 律 子
八 王 子 市	鍵 水 小 学 校	遠 田 毅
調 布 市	第 三 小 学 校	浦 崎 勲
小 金 井 市	本 町 小 学 校	林 小 和 子
田 無 市	谷 戸 小 学 校	吾 妻 彰

◎ 世話人 ○ 副世話人

担 当 教育庁指導部初等教育指導課指導主事 鈴 木 義 治

目 次

I	研究主題	
1	研究主題について	2
2	授業のイメージ図	3
3	研究の構造	4
4	視点について	4
5	実践授業と視点とのかかわり	5
II	実践授業	
1	絵から〇〇がとびだした（3学年）	6
2	コチコチ・アート（4学年）	9
3	学校に住むぬし（6学年）	12
4	私の白い箱（5学年）	15
5	お願い！ロボット君（4学年）	18
6	みつけたよ、つくったよ（1学年）	21
III	研究のまとめと今後の課題	24

＜概 要＞

本研究は、子どもたち一人一人の多様な表現を引き出し深める授業の工夫を研究の主題に据え、「子どもの表現の在り方を幅広くとらえる題材の工夫」と、「主体的に自己選択できる学習過程の工夫」の二つの視点から学習指導の在り方を追求した。

「子どもたち一人一人の表現」のために「子どもたち自身がつくりだすこと」に焦点を当て、指導内容・方法を工夫した。

I 研 究 主 題

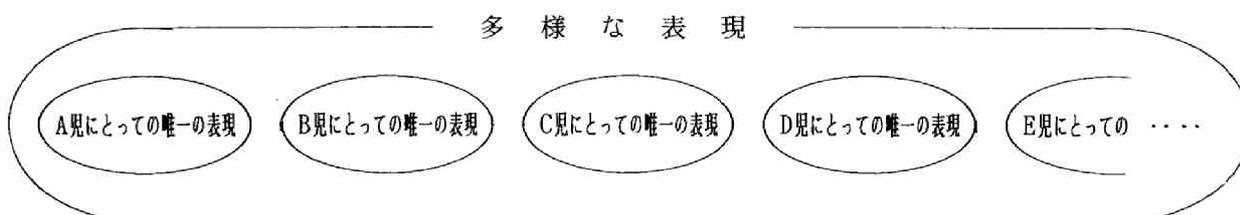
多様な表現を引き出し深める授業の工夫

1 研究主題について

図画工作科では、これまで、子どもたちの様々な思いや願いを受け止め、豊かな表現へと高めて表現の喜びを味わうようにすることを教科の大きな柱としてきた。子どもは、今も昔も本来一人一人がそれぞれの感性をもち、表現の欲求をもっていると私たちは信じる。

そのような図画工作の授業を進めていくためには、多様な子どもたち一人一人に適切な対応をしていくことが大切である。もう一度ここで、子どもの多様性を踏まえ、一人一人がつくりだす喜びを味わうことができる授業の展開をとらえ直し、工夫していくことが重要だと考える。子どもたちから多様な表現を引き出し、それを単なる思いつきにとどまらず、その子自身の表現として深めさせたいと考え、上記主題を設定した。

ここでいう「多様な表現」とは、表面的な現象だけを指しているのではない。一人一人の子どもの内面で、様々な思いやイメージ、考えなどが生成と変化をくり返しながらか、次第にその子にとって唯一の表現へと向かっていくその過程こそが大切だと考える。多様な子どもたち一人一人が自分の表現を見出したとき、結果として私たちの目の前に、多様な表現が展開されるのではないだろうか。



研究を進めるにあたって、子どもの表現欲求から始まり多様で創造的な表現へと展開していく一連の流れを、水面に広がる波紋のイメージとしてとらえてみた。

子どもの表現欲求や意欲を水面にたとえると、教師の役割は、水面に石（表現のきっかけや手だて）を投げ、波紋（多様な表現への広がり）を起こさせることだろう。

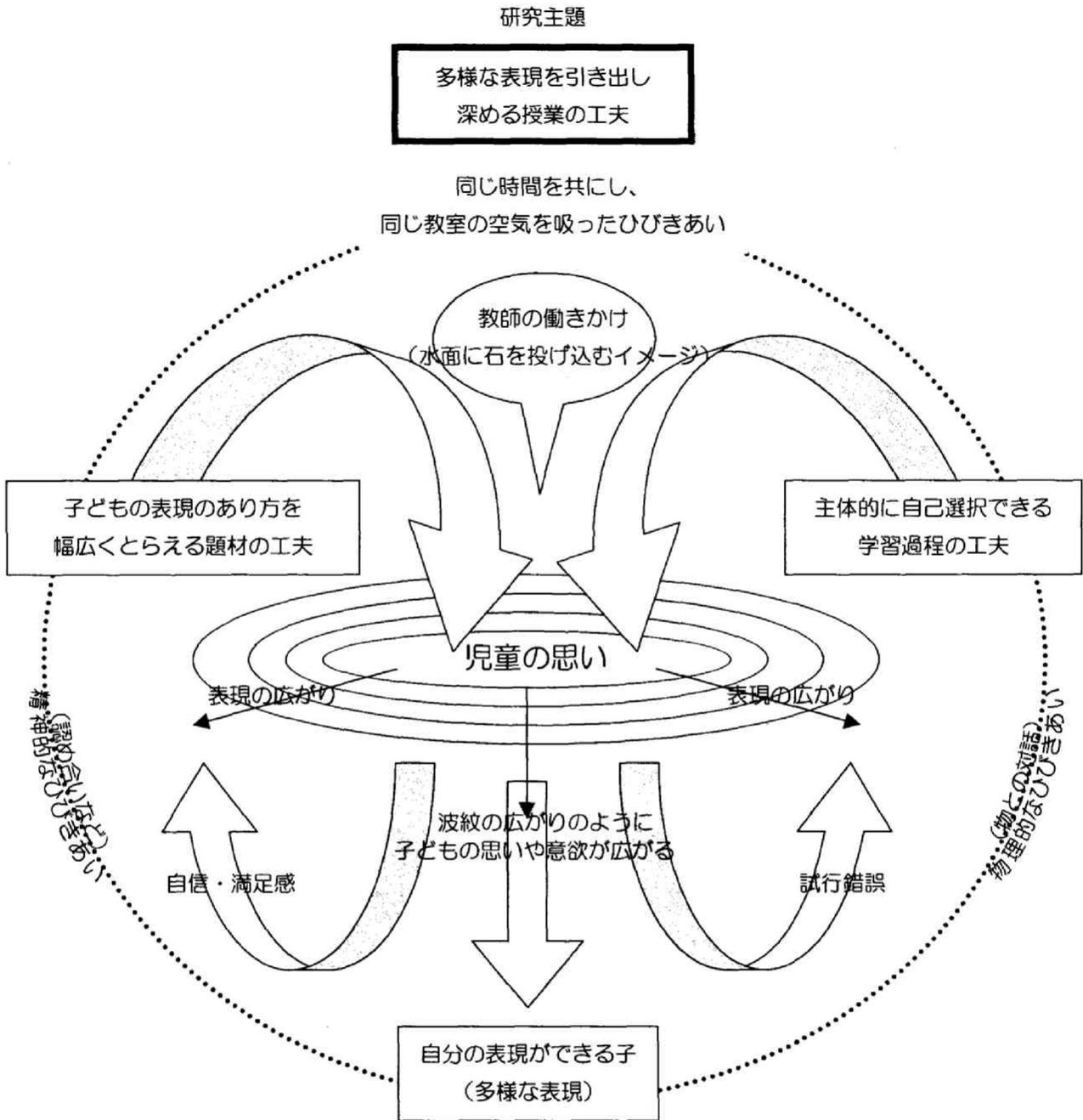
教師はいつ、どこにどのような石を投げれば波紋を起こすことができるのだろうか。また、どうすればその波紋が様々な方向に大きく広がっていくのだろうかを考えていく必要がある。

そのための手だてとして、次の2つの視点から考えていくことにした。

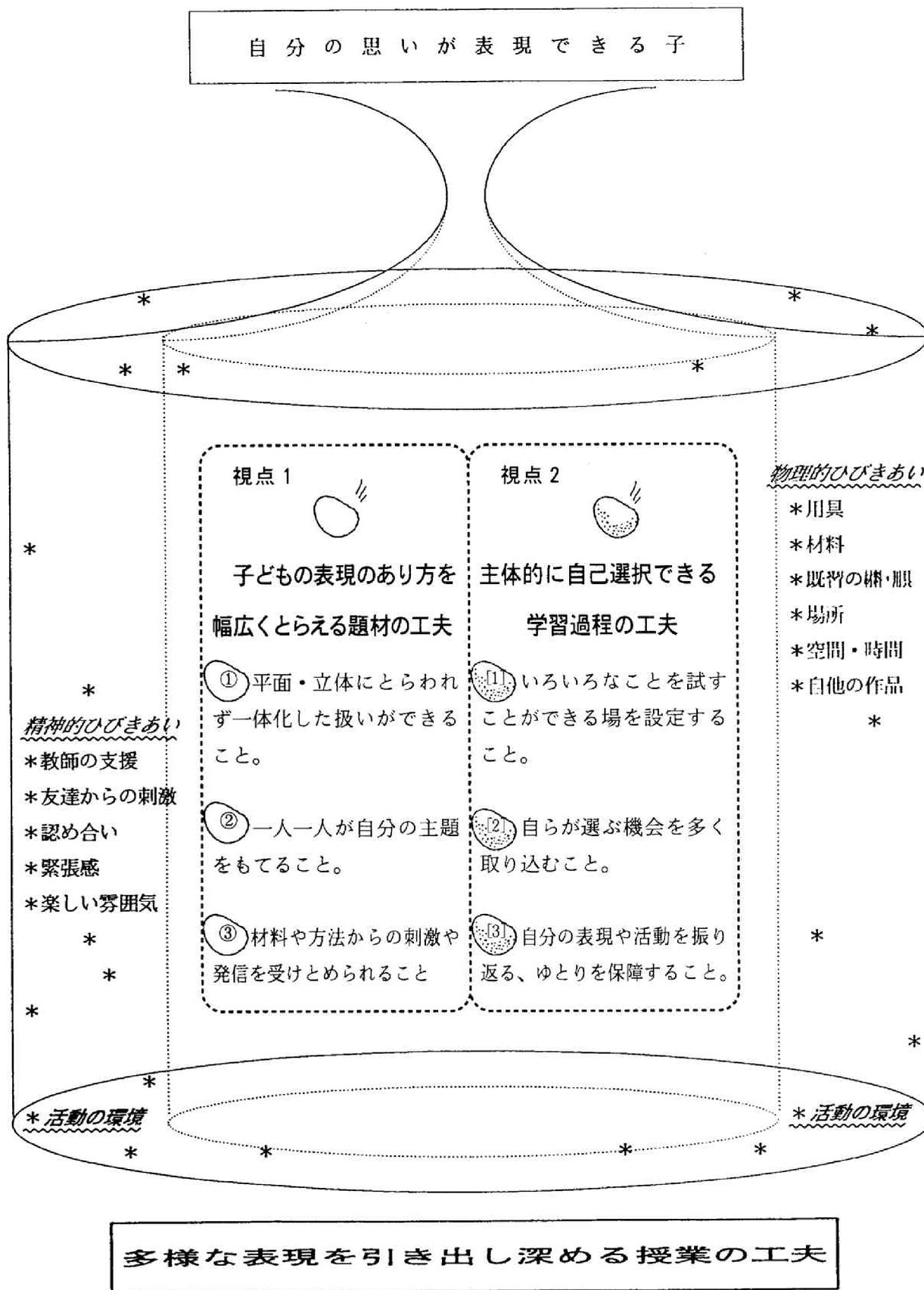
- ①子どもの表現のあり方を幅広くとらえる題材の工夫
- ②主体的に自己選択できる学習過程の工夫

また、学校で友達や教師とかかわりながら活動していくよさを、波紋のイメージに関連した「ひびきあい」という言葉でとらえ、学習を成立させる前提となる活動の環境の大切さにも注目しながら、研究を進めた。

2 授業のイメージ



3 研究の構造



4 視点について

(1) 視点1 子どもの表現の在り方を幅広くとらえる題材の工夫

- ① 平面・立体にとらわれず、一体化した扱いができること



教師が投げかけた主題や材料などをもとに、一人一人が平面や立体という表現方法を選択したり、一体的に表現したりできる題材。

- ② 一人一人が自分の主題をもてること



幅のある主題を投げかけることを表現の手がかりとし、一人一人が自分の主題を見いだしていくことができる題材。

特に子どもにとってのリアリティーのあるもの（身近なテーマや感情移入しやすい内容など）を扱うこと。

- ③ 材料や方法からの刺激や発信を受けとめられること



子どもの感性を揺り動かす材料や方法をきっかけとし、つくりたいものを見つけたり、自分なりの材料の使い方を考えたりしていろいろな表現の流れを自らつくり出していける題材。

(2) 視点2 主体的に自己選択できる学習過程の工夫

- ① いろいろなことを試すことができる場を設定すること



試しの場を準備・保障し、つくる過程で様々に迷ったり悩んだりするたびに、自分の進む方向を見つけていけるようにする。

- ② 自らが選ぶ機会を多く取り込むこと



主題・材料・方法について「選ぶ」機会を多く取り入れ、様々な方向へと流れを広げるきっかけをつくる。

- ③ 自分の表現や活動を振り返るゆとりを保障すること



自分の手ごたえを確かめたり、思いを深めたりする時間的なゆとりをもたせ、一人一人の達成感や充実感を実現できるようにする。

(3) 活動の環境

- ・ 題材及び学習過程は環境と一体化し、環境を前提として成り立っている。
- ・ 視点1・2の実践にあたり、環境の部分で「ひびきあい」がキーワードとなる。



ひびきあいとは…人や物と自分との間で感覚や思いが共鳴したり干渉し合ったりすること

<精神的なもの>

心と心のひびきあい

例えば 教師の受容や支援
友達からの刺激や認め合い
よい緊張感や期待感 など

<物理的なもの>

物や空間、時間との間のひびきあい

例えば 材料の見た目や感触から刺激
活動の場所の影響 時間の流れ
自他の作品からの揺り返し など

ひびきあいは常に存在し、確実に学習に反映してくる。このひびきあいを教師が意図的、効果的に呼び起こすか否かは、波紋（多様な表現への広がり）を引き起こし、持続することに深くかかわると考えられる。

II 実践授業

1 題材名 「絵から〇〇がとびだした」 ——立ち上げた形から—— (3学年)

題材について

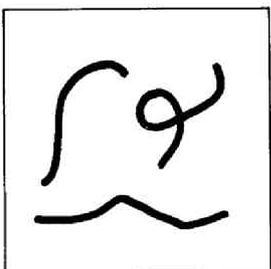
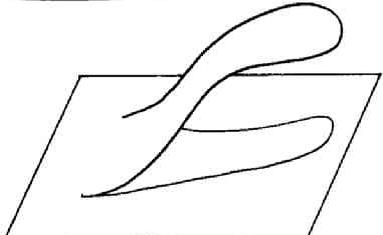
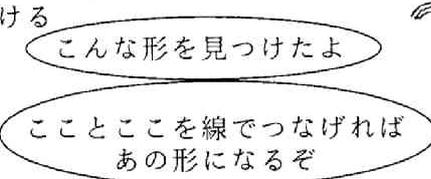
これまでの授業では、絵なら絵、立体なら立体というように、表現を固定的に扱うことが多い。平面や立体にこだわらない、あるいは平面と立体の両方の要素をもった題材を取り上げた。紙にカッターナイフで自由に切り込みを入れ、それを立ち上げることで、平面と立体両方の要素をもった画面(空間)が生まれる。そこから平面と立体の間を自由に行き来するような多様で創造的な表現が生まれてくるのではないかと考えた。使用する紙は、縦横の比率にとらわれない発想を促すために、正方形の画用紙とした。また、自分で発想し、表し方を自分で選択し工夫できるように、形を見つけるためのヒントや画面のとらえ方について、子どもが必要とする場面で提案や助言をするよう心がけた。友達の発想や工夫を参考にできるように、友達の作品を自由に見て回れる時間も設定した。

ねらい

- ・切り込みを入れて立ち上げた紙の形から、自由に発想して表す。
- ・平面から立体へと立ち上がる画面に描くおもしろさを味わいながら表す。

学習活動の流れ(4時間)

視点1①平面・立体にとらわれず一体化した扱い ① ③材料や方法からの刺激や発信を受け止める ③

	出 会 い	広 が り
なげかけ	<ul style="list-style-type: none"> ・アルミの針金を適当な長さに切って好きな形に曲げて、画用紙の上にセロテープで貼ろう ・針金のまわりにカッターナイフで切り込みを入れよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・カッターナイフでつくった切り込みを立ち上げてみよう。針金をいれてあるから自由な形に立ち上げることができるね ① ・これをもとにして、何かおもしろいことが表せないかな ③
活動の展開	①アルミ針金を好きな形に曲げ素材の特徴を楽しむ アルミの針金って柔らかいね おもしろい形がつけれるよ ②針金を2~4本の適当な長さに切って好きな形に曲げ、画用紙の上に好きな構成で並べてみる 気に入ったらセロテープで貼る こんな並べ方がいいかな 	③切り込みを自由な形に立ち上げてみる らせんのように巻いてみよう 途中で直角に曲げてみよう 波がたに曲げてみよう 
		④立ち上げた形から、表したいことを見つける こんな形を見つけたよ こことここを線でつなげればあの形になるぞ 
支援	<ul style="list-style-type: none"> ・最初にアルミ針金の素材としてのおもしろさを十分に味わわせる ・針金を画用紙に並べるとき、迷っている子には、構成にこだわらず自由に並べてよいことを知らせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・形を見つけられない子には、立ち上げ方を変えたり、上下左右を入れ替えたり紙をひっくり返したり、いろいろな方向から眺めさせてみる ① ②

準備するもの

教師：画用紙 アルミ針金 セロテープ 水性マーカーなどの描画材 カッターナイフ
 子ども：絵の具 はさみ その他図工室で使える材料を自分で考えて使う

考察

今回の授業では、偶然にできる形から出発した。3年生の実態から、そうすることで自由で多様な表現が生まれてくるのではないかと考えたからである。実際、紙を底面としてとらえ、俯瞰的に表現した子、紙を横から見て、遠近としてとらえた子、紙全体を何かの形に見立てた子、など様々なアイデアによる多様な作品が生まれた。

適宜、製作途中の子どもの作品を全体で紹介したり、アイデアが浮かばない子に自由に友達の作品を見て回るよう促したりしたことも、発想のきっかけをつかんだり、表現を深めるために有効だった。材料を絵の具に限定せず、効果を考えながら他の材料も使うように設定したことも、子どもの自己選択を促す支援となった。

子どもたちにとって、切り込んだ形を立ち上げるまでは先が見えず、教師の示した手順通りに進めなければならないという点については、さらに検討する必要がある。

視点② [1]いろいろなことを試す場を設定する [2]自らが選ぶ機会を多く取り込む 被紋 (多様な表現への広がり)

深 ま り

- 絵の具やマーカーなどを使って見つけた形などを表していこう
- 友達の作品を見てみたい子は自由に見て回っていいよ

- 友達の作品を見てみよう
 どんなおもしろいことを見つけたかな
 どんな表し方をしているかな

⑤見つけた形などを、絵の具その他の自分で選んだ材料を使って、表していく

⑥友達の説明を聞いたり、工夫したところをお互いに発表しあったりしながら鑑賞する

ここはこの材料でこんな色にしよう

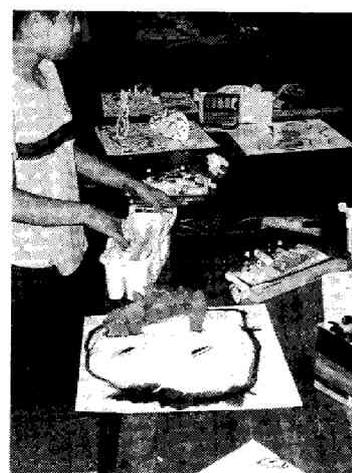
なるほど、こんなふうにしたのか

色をつけたら別の形が見えてきたよ
 こんなふうに変えてみよう

おもしろいね

すごいね

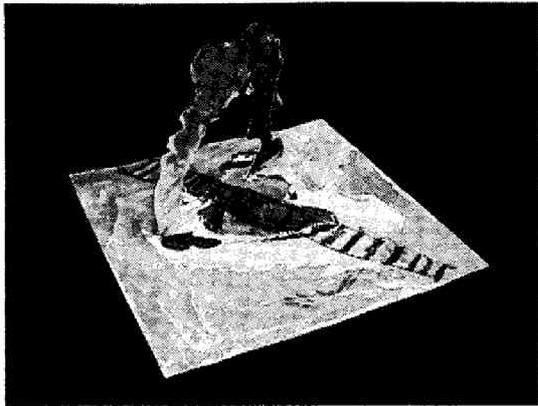
別の材料はないかな



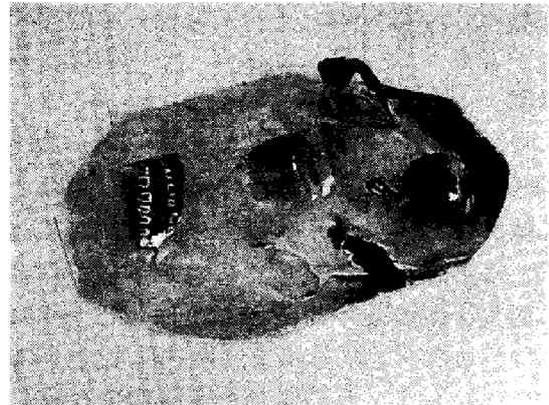
- どのような材料を使って表せばよいか
 その子なりに考えさせる
 いろいろな材料を用意しておく

- お互いに工夫したところなどを見つけ共感し合う

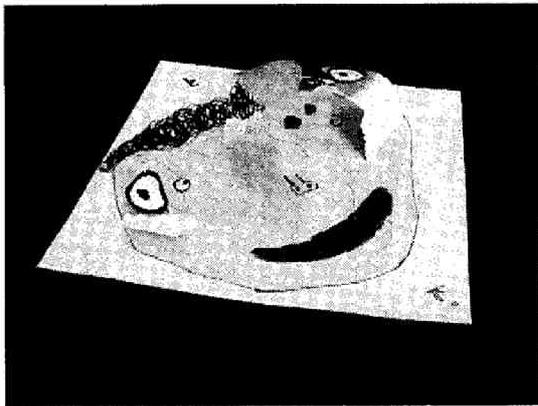
「絵から〇〇がとびだした」作品例



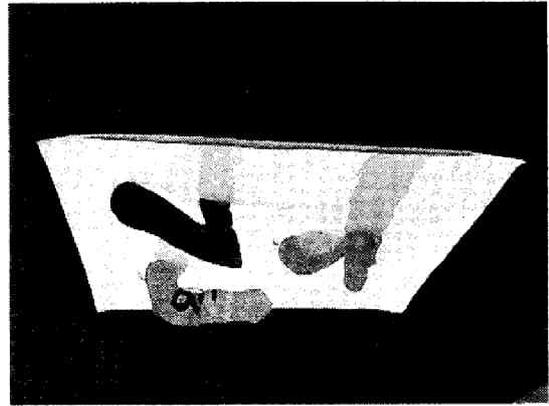
「線路とトンネル」 俯観的な表現の例
背景を地面としてとらえ、アーチ型に立ち上げた部分をトンネルに見立てた。



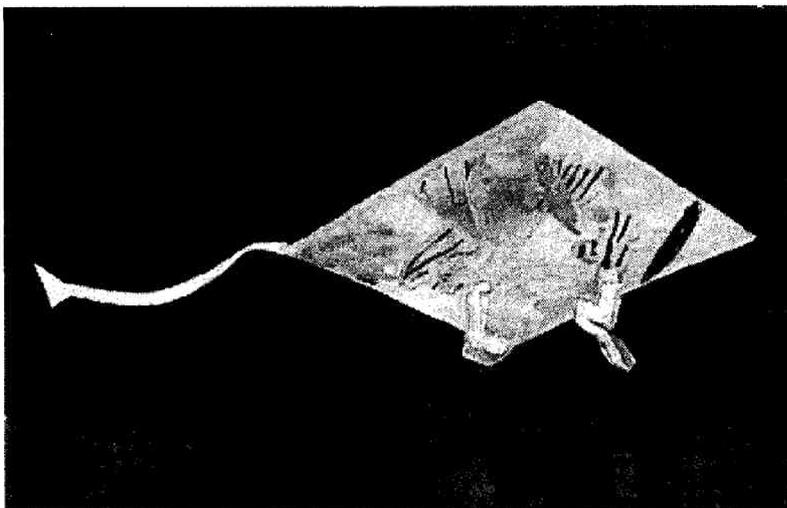
「怒った顔」 表したいものの形に切った例
紙を顔の形にきり、口や鼻の立ち上げ方を変えることで、表情が変わる。



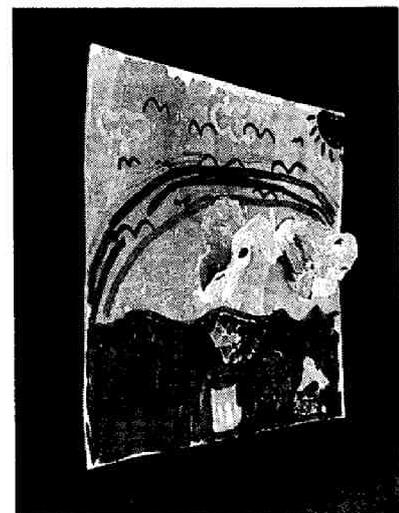
「変わる顔」 仕掛けとして利用した例
立ち上げた紙の下に別の目や鼻を描き、紙を折りまげることで別の顔に変わる。



「水たまりに入った足」 背景を上面とした例
水の中からの視点で、足を描いた。
背景に当たる部分は、下から見上げた水面。



「エイ」 紙全体に何かの形に見立てた例
紙をエイの形に見立て、シッポをつけた。
立ち上げた部分はヒレやエラ。



「虹とカモメ」 遠近的な表現の例
背景と立ち上げた部分を遠近としてとらえ、虹の手前に飛ぶカモメを表す。

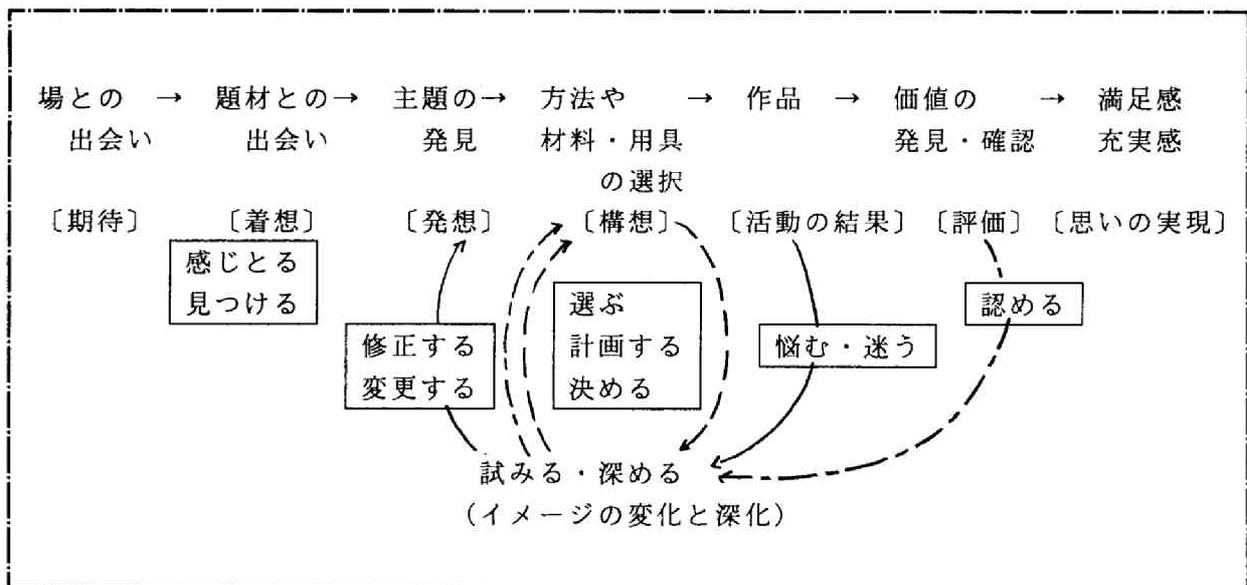
2 題材名 「コチコチ・アート」 (4 学年)

題材について

児童は3年の時に石膏の作品を経験している。石膏の質感を楽しみながら生き生きと活動できた経験を生かしながら、「思い \leftrightarrow 活動」の関わりに重点をおき、一人一人の思いをより深めていけるように発展させたいと考えた。つまり、“タオルを石膏で固める”という前回と同じ材料、同じ内容を扱いながら、今回は子どもたちが試行する過程を意図的に加えようと考えた。これによって、前回は “思い” から即 “作品” へと流れた活動を

今回は “予想” → “思い” → “自己との対話” → “作品” という流れでとらえようとした。繰り返し試しを行う中で自分の中へと「思い」を取り込み直し、その過程でイメージはより明確になり、「思い」はより情操の深い部分まで届くことができるのではないか、そして、できあがる作品は子どものイメージや思いをより実現したものになるのではないかと考えた。

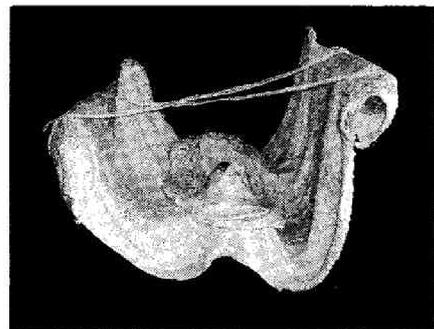
授業の流れでとらえると



上図の渦の部分のくりかえしに重点をおいた題材である。

ねらい

- ・ 経験を生かして予想をたて、自分の思いや作品のイメージをもつ。
- ・ 石膏で固める前に「試し」を行うことで、自分の思いを確かめたり、深めたりする。
- ・ 石膏という素材の特性とかわり合い、つくる途中で思いが変わることも楽しむ。



材料

石膏、タオル、布、ビニール袋、
トレイ、牛乳パック、ペットボトル、
クリップ、ひも、絵の具、
それぞれで工夫するもの

ビニール袋の中につくった石膏の液にタオルをつけこんで形をつくる



タオルをつったり土台にかぶせたりして形を考える

学習活動のながれ（3時間）

- ② 視点1-② 一人一人が自分の製作過程をもち、それぞれの主題にむかう。
- ③ 視点1-③ 石膏の特徴を生かし、自分の主題や方法を考える。

	出 会 い	広 が り
なげかけ	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の石膏作品を思い出そう ・材料や用具、場の準備をしよう ・つくり方を見よう <p>感じとる・見つける</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな形にしよう ・何をどう使おう ・試してみよう <p>選ぶ・計画する・決める</p>
活動の展開	<p>① 3年の時の学習を思い出して作り方や感触を予想する</p> <p>② 材料や用具の準備、場作りをしながら、どんなものがつくれるのか考える</p>	<p>③ タオルをクリップでつったりペットボトルにかぶせたり包んだりしてできる形を考えて自分のつくりたいイメージをもつ</p> <p>④ 土台の組み方やタオルのつり方を考えてイメージを試してみる</p>
支援	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の石膏の授業の話をする ・楽しく場作りをしながら期待や興味を引き出す ・発想の刺激、手助けとなる簡単な方法を提示する 	<ul style="list-style-type: none"> ・予めイメージがもてない子は材料とかかわりながら、徐々にイメージを組み立てさせる ・土台の組み方の工夫に幅がでるように助言、声掛けをする



かざりをつけたいな



色をつけたいな

考察

子どもたちは、おもいおもいの発想で楽しく活動することができた。何度も試しながら自分のイメージをさがす子、はっきりとした自分のイメージに作品を近づけようと試行錯誤する子、予定どおりにいかず思いきり方向転換をする子、つぎつぎ浮かぶイメージを作品に生かそうとやっきになる子など活気があり、変化のある授業となった。子どもたちは個々に思いをもつことができ、またその過程で自分の思いを試したり、確かめたりもできたようだ。

- ① 視点2-① 土台やつるし方など方法を工夫し、試してみる。
- ② 視点2-② 「やっぱりこうしたい」「もっとこうしたい」を考えて、悩む・迷う・修正する・変更する。

- ① =石 ... (表現のきっかけやてだて)
- 例) ③ ... 視点1の③にかかわる石
- ④ =波紋 ... (多様な表現への広がり)

深 ま り	満足感・達成感
<ul style="list-style-type: none"> ・「やっぱりこうしたい」「もっとこうしたい」を見つけよう <p>悩む・迷う・修正する・変更する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちよく活動できたかな？ わくわく、どきどき、すっきり など ・友達の作品はどんなかな？ <p>認める</p>
<p>⑤ やって見たらどうだったかを確かめて、やっぱり、もっとを考える</p> <p>⑥ 他に使える材料や用具はないか やり方を変えたらどうか 色はどうしようか など 思ったことは何でも試して確かめる</p> <p>⑦ いいと思ったら石膏で固める</p>	<p>⑧ 思いやイメージを実現したり、深めたりした手ごたえを感じる</p> <p>「思ったとおりにつくれた」「思ったのとは違ってきたけれど工夫しながらつくれた」「途中で思いが変わってどんどん新しく考えられた」 など</p> <p>⑨ 友達もがんばったから、みんなの作品を見て楽しむ</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・あれこれ試してみるように励ます。 ・材料や方法、着色など思いついたものをどんどんすすめる 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちのつぶやき（心の声）を聞いて、満足する思いを受けとめる ・さらにやりたい思いを大切にしていって次の作品に意欲をつなげる

3 題材名 「学校に住む主（ぬし）」 （6 学年）

題材について

高学年ということで、自分の身なりやおしゃれに気を配っている子が多く見られるようになってきた。また、ゲームやまんがのキャラクターの人気は絶大である。そのような感覚を作品に生かせないものかと考えた。主の姿や性格、居場所を考えながら製作し、さらに、その作品を校内のどこにどのように展示したらよいかを考えることで、作品への思いを一層深めさせたいと考えた。

また、その過程で、子どもが周りとのかかわりを通して自分のイメージを広げられるように、友達とかかわる場面を多く取り入れていった。さらに、製作ノートを活用することで、自分の思いを確かめながら製作していく手立てとした。

ねらい

- ・お話や友達の話聞いて、主をイメージして学校にいる主について想像する。
- ・身体の特徴や性格、居場所などを想像しながら自分のつくる主を決めていく。
- ・主の姿を材料の使い方や表し方を工夫して表現し、設置の仕方についても考える。

学習活動の流れ（8 時間）

○ : 石

☪ : 波紋

= 表現のきっかけやてだて

= 多様な表現への広がり

	出 会 い	広 が り
なげかけ	<ul style="list-style-type: none"> ・話を聞いて、主ってどんな感じかな？^② ・みんなが知っている主ってどんなイメージ？ ・学校では、どんな主が考えられるかな？^② 	<ul style="list-style-type: none"> ・主ってどんな身体の特徴があるのかな。性格は。どこにいる？^②
活動	<p>①お話（「よるの森のひみつ」使用）を聞いて主について感じたことを話し合う</p> <p>えらい 年をとってる こわい 強い 不思議な力をもっている エイリアンみたい</p> 	<p>③自分がつくってみたい主を身体の特徴や性格、居場所などを想像しながらアイデアスケッチをする</p> <p>④使えそうな材料について話し合う</p>
展開	<p>②学校に主が居るとしたらどんな主が考えられるか話し合う</p> <p>図工室、理科室、校庭の主 下駄箱、階段、トイレの主 ゴミ箱、生ゴミ、の主も</p> 	<p>葉 アワシ ストロー 木くず わた カフ スポンジ</p> <p>そうかそんな材料も使えるな</p>
支援	<ul style="list-style-type: none"> ・最初に主の出る昔話を紹介し主のイメージをもたせる ・話し合いを通してイメージを広げさせる ・実際に校内をまわって学校に住む主を想像させる^② 	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな材料が使えそうか話し合う場をもち意識を高める

用具： のこぎり カッター 紙ヤスリ 軍手
 材料：教師 発泡スチロール 木材 針金 接着剤 釣り糸
 子ども 集めた材料

考察

主って何だろう。少し古くさいイメージをもつ言葉であるが、それがかえって子どもたちには謎めいたもの、不可思議なものとして映ればと考えこの題材名にした。最初に民話を読み、子どもたちに主のイメージをもたせた。さらに、話し合いにより、そのイメージは、仙人、霊、お化け、エイリアンなどのイメージとも重なり、さらなる広がりを見せ、子どもたちによる主のイメージができ上がった。

この題材においては、上記のように主題性を出発点として進めていった。しかし、主題性から迫ることが苦手な子においては、材料からも発想できるように普段あまり目にしたことのない発泡スチロールの塊（いろいろな形に切ったもの）を用意した。その結果、形のおもしろさや、素材自体の魅力に感覚を刺激され、そこからアイデアをふくらませている子の姿も見られ、多様な表現の手助けとなった。設置場所や設置の仕方も、それぞれこだわりをもって行っていた。

- ② ③ = 視点1 ②一人一人が自分の主題をもてること
 ③材料や方法からの、刺激や発信を受けとめられること
- ② ③ = 視点2 ②自ら選ぶ機会を多く取り込むこと
 ③自分の表現や活動を振り返るゆとりを保障すること

深 ま り

- ・持ってきた材料を使ってつくってみよう
- ・顔の表情はどんな感じかな？
- ・自分のつくった主は、校内のどこにどのように置いたらいいかな？
- ・友達の作品がどのように展示してあるか、校内をまわって見てみよう

⑤ アイデアスケッチをもとに、また、材料から発想して身体をつくっていく



そのアイデアいただき

⑥ 主を校内に設置する



⑦ みんなで校内をまわって鑑賞する

- ・材料をいくつか用意しておき発想、構想の手助けをする
- ・話し合いを通しイメージを広げる
- ・子どもが自分の思い通りに設置できるように設置の仕方をアドバイスする
- ・お互いのよさを見つけ共感し合う場をもつ
- ・友達とのかかわりから発想を広げさせる

・「学校に住む主（ぬし）」多様な表現の作品例



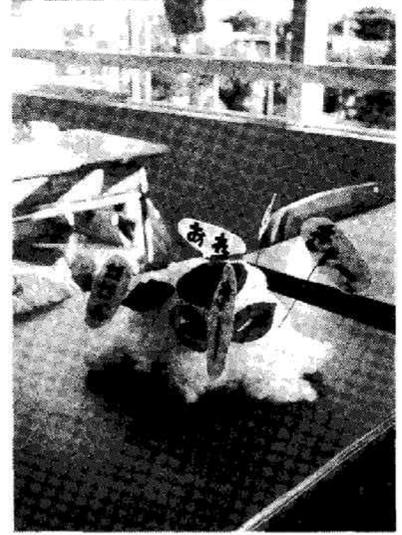
ソウキン のぬし

- 身体の特徴は
そうきんで何年も使われている
牛乳くさい。
- 性格は
汚い所をいってくるが、優しい性格
けげんきょう
- 居場所
さまざまなお所に居る



教室の主メロポンのぬし

- 身体の特徴は
不気味、とける、えたいの知らない
ラトセルはてる。
- 性格は
あつい、短気、おそろしい。
- 居場所
6-2教室の自分のいす。



学校全体の声のぬし

- 身体の特徴は
体は、声でできている。
- 性格は
ふんばは、はずかしがりやで人の前にきこ
見えぬい、とれる、おそろしい、教室におかぬ。
- 居場所は
たれもない、教室。



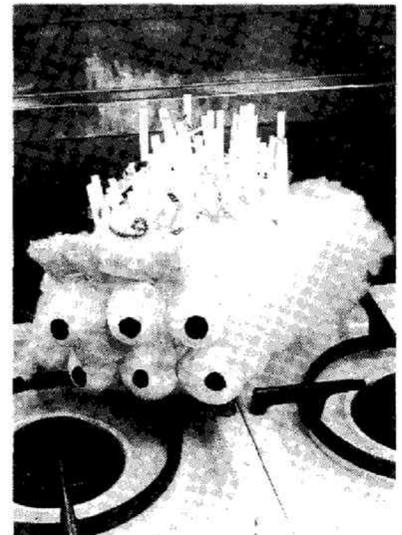
池の中の魚のぬし

- 身体の特徴は
はせ利(魚)られる、とうめい
いれり全部ほねたけ。
- 性格は
おおさ、ほできれもの
- 居場所は
学校の池の中



植物のぬし

- 身体の特徴は
体の洋服が植物でおお
われている。
- 性格は
ふんばはやさしいけど植物
をいじめる人にはこわいおしあき
する
- 居場所は
校庭の葉の間



家庭科室のぬし

- 身体の特徴は
エイアとみたくて、
目がみこあてで見てるかわからない。
- 性格は
おこりのほうで、おほれると目がみこ
みる
- 居場所は
ガスこもろ

4 題材名 「私の白い箱」 (5学年)

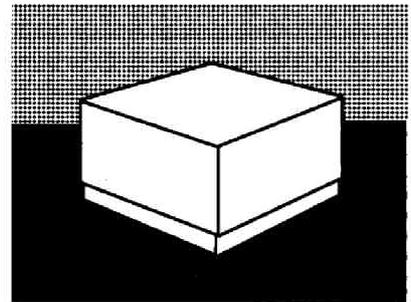
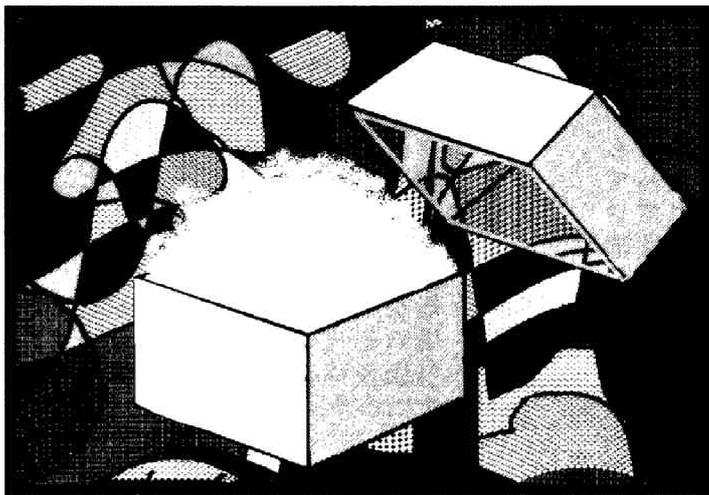
題材について

箱を開けるときの、なんとなくワクワクする。中にどんな物が入っているのだろうという期待感で胸がときめく。そして、箱をあけたときにパッとその場の空気が変化する。

今回はそんな「箱」を題材にしてみた。白くて四角い、同じ形の箱をまず子どもたち全員に与えてみて、そこから活動をスタートすることにした。箱の内部に思い思いにかいたり、つくったりして、世界にただひとつの自分だけの大切な箱になるよう製作した。

「箱」というものは日常生活の中で、いろいろな意味(役割)をもっている。たとえば、人から人への贈り物だったり、あるいは家の中で大切な物をしまっておくところであったり、または特別な日に着る洋服が入っている箱であるかもしれない。そんな、いろいろな意味(役割)をもった箱というところから発想をスタートしてもよい。また四角く白い箱の、造形的なおもしろさからイメージを発展させてもよいことにする。

なお箱を開ける前と開けた後での、その場の変化をよりはっきり出すため、あえて箱の外側は何も手を加えないこととした。



ねらい

- どんな箱にしたいか、主題や材料から自分のイメージを深める。
- 自分のつくりたいイメージにそって、材料、技法を自己選択する。
- 友だちやまわりの人とも、造形を通して影響を受けあったり共感をしたりする。

材料

材料集めの段階から主体的に取り組ませたい。使ってみたい材料は前もって集めておくよう指導する。

その他、特殊加工されたキラキラしたフィルム、発泡ウレタン、発泡スチロール、アルミ線、紙粘土など、子どものイメージをふくらませるような材料を教師が用意しておく。

用具

接着剤、塗料、糸のこ、ペンチ等、いつでも使用可能な状態にしておく。

学習活動のながれ（6時間）

- ③ 石マーク＝表現のきっかけやてだて
- 波紋マーク＝多様な表現への広がり

	出 会 う	イメー ジを持 つ
なげかけ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 白い箱を見せながら、第一印象を聞いてみる 「中に何が入っていると思う？」 ・ 子ども全員に中身が空の白い箱をわたす ③ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の題は『私の白い箱』です。箱の内側を自分で工夫してつくったりかいたりしてあなただけの大切な箱にしてみましょう ②
活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ 箱の第一印象を話し合う <p>なんだろう</p> <p>プレゼント</p> <p>ケーキの箱</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 白い箱を手にもつ ふたを開けたり閉めたり中をのぞいたりしてみる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 紙に思いつくままアイデアを書きしてみる ・ 凶工室や準備室をまわってどんな材料や道具があるか調べてみる <p>これ、つかえるぞ</p> <p>これと、家にあるあれを組み合わせせて…</p>
支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ この白い箱以外に、スニーカーをしまっておく箱や大きなお皿が入っている箱など、日常生活で使われているいろいろな箱を見せ、日常生活での箱のもつ役割について考えさせる ・ 校内のいろいろな場所に白い箱を置いておくと、そばを通りかかった子は、何かなと思い、おそるおそる手に持って重さを確かめたり、軽く振ってみたり、ふたを開けてみたり、様々な反応を示す。そんな様子を校内で撮影したVTRを見せ、箱という物が人に与える印象について考えさせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ アイデアスケッチをさせたり、言葉で考えるタイプの子は、どんな箱にしたいか文章で書かせるなどし、イメージをつかませる ・ 箱を開ける前と開けた後での、その場の変化をよりはっきり出すため、外側には、あえて手を加えないことを伝える ・ 自分のイメージにあった、作品づくりに使えそうな材料は、次回までに集めておくよう話しておく



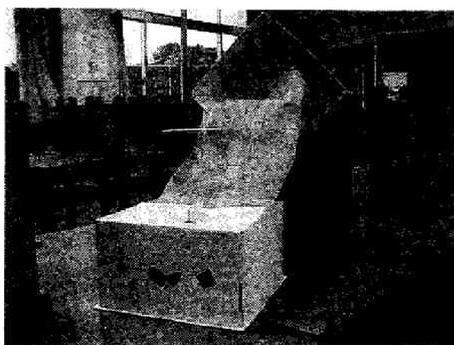
視点1 ①平面表現、立体表現を自由に組み合わせて構成する。

③白くて四角い箱を手に持ったところから始める。

②自分のイメージを深めて、箱の内側をつくる。

視点2 [2] 自分のつくりたいイメージにそって、材料、技法を選ぶ

つ く る	深 め る
<ul style="list-style-type: none"> 自分のイメージを表すにはどんな材料を選んだらいいかな (2) 箱の側面にも絵をかけるね (1) 友達の作品を自由に見てまわっていいよ 	<ul style="list-style-type: none"> みんなの箱を順番に開けてみよう 自分の箱に題名をつけよう この箱を校内のどこにどのように展示しようか
<ul style="list-style-type: none"> 集めてきた材料や図工室の材料をもとに、いろいろな方法を試しながら自分のイメージに近づけていく 友達の活動を見て、自分の作品にも応用できそうな方法があったら試してみる <p>うん、いいかんじ</p> <p>ふたの方も工夫しよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> 友達の箱をお互いにあけてみる 作品にタイトルをつけ、自分の活動について振り返る 自分の作品についての説明を書く <p>かわいいね</p> <p>うわ、すごい</p> <p>そうか、なるほど</p>
<ul style="list-style-type: none"> 子どもがいろいろな技法を試すことができるように、糸のこ、接着剤、塗料などの用具はいつでも使うことができる状態にしておく 特殊加工されたキラキラしたフィルム、和紙、アルミ線など、子どものイメージをふくらませるような材料を教師が用意して、誰でもそこから使ってよい、「材料コーナー」に置いておく あるひとつの作例を教師が提示するとそれにとらわれてしまう場合があるので、子ども独自の発想を引き出すため、あえて作例は提示しない 	<ul style="list-style-type: none"> この箱を校内に展示する際、作者の意図がわかるように、箱を開けた人へのメッセージのつもりで、作品カードに箱の説明文を書くように話す 題名、説明文が書いてある作品カードを箱の近くに張っておく 展示の際、ふたを開ける前と開けた後での場の空気の変化をよりはっきり出すため、ふたをした状態で展示するが、 <ul style="list-style-type: none"> 「そっとあけてください ・振らないでください」 などの注意書きをそえる



考察

平面や立体という表現方法にとらわれない、幅のある活動が展開できた。子どもたちは家からいろいろな材料を持ってくるなどし、それらをもとに、自分の独自の世界をつくり出していた。白い箱の内側の側面が形として強いので、側面にビーズなどを貼り付ける表現方法をとる子のはじめのうちは多かったが、製作が進むにつれ、様々な試行錯誤を繰り返すうちに多様な表現が見られるようになった。

5 題材名 「お願い！ロボット君」 (4学年)

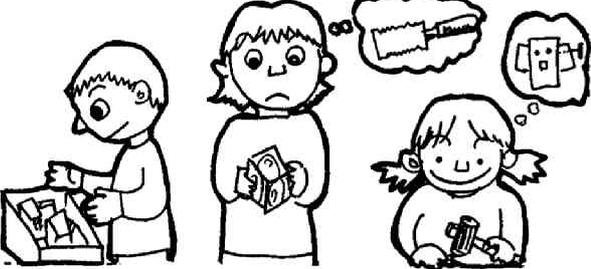
題材について

子どもたちはいろいろな願いや夢をもっており、それをかなえてくれる『ドラえもん』のような存在に憧れを抱いている。本当にそんなロボットがいたらどんなにいいだろう。この題材では、「みんなの『お願い!』を聞いてくれるロボットをつくろう」と投げかけることで、子どもたちそれぞれが自分だけの主題をもって、より主体的に活動することができるのではないかと考えた。(②) 視点1-②)

主な材料としては地域の工務店からいただいた材木(木っ端)を取り上げた。様々な大きさ・形があるうえに(③) 視点1-③)、この児童たちは木を使った工作の経験が既にあり自分で加工することもできるので、材料選択の幅や活動の選択の幅を広くとり、それぞれの子どもが自分に適した製作過程をとることができるのではないかと(②) 視点2-[2])と考えた。

はじめの発想をメモにかき最後にできあがったものをカードにまとめることで学習過程の中での変化(自己決定)を感じとらせたいと考えた(③) 視点2-[3])。また友達とかかわる場面をとり入れることで、自分の考えを深めたり表現の多様性を感じとらせたい。

学習活動の流れ(10時間) ② 視点1-②一人一人が自分の主題をもてること。 ③ 視点1-③材料や方法からの、刺激や発信を受けとめられること。

	イメージを広げる	出会う
なげかけ	<p>「みんなの『お願い!』をきいてくれるロボット君がいたら楽しいね。みんなだったらどんなロボット君が欲しい?」 「絵や言葉でメモしよう」</p> 	<p>「こんな材料があるのだけれど、これを組み合わせて『お願い!』をきいてくれるロボット君をつくってみよう」</p> 
活動の展開	<p>自分なりのロボット君のイメージを広げる</p>  <p>「仲良くしてくれるロボットが欲しいな」 「犬の形でもいい?」 「絵に描いてみようかな」</p> 	<p>自分のアイディアにあう形の材料を選択し、形を組みあわせて、さらにイメージを膨らませるまた必要に応じて形を切ったり、くっつけたり加工する</p>  <p>「どの形を使おうかな」 「これとこれを組み合わせたらどうかな」 「どうやって組み合わせようかな」 「この部分を切り取りたいな」「車みたいな形にしたいな。」</p> 
支援	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの「お願い!」を掘り起こしてイメージを考えさせたり、形からイメージを広げさせる 言葉や絵、図など、自分の書きやすい方法でメモをする 	<ul style="list-style-type: none"> イメージが浮かばない子は材料を組み合わせたり、友達と相談したりしながらイメージを考えさせる 道具・材料の適切な使い方については個別に対応する

ねらい

- ・自分なりの主題を考えるアイデアを広げる。(②視点1-②)
- ・自分の思いを表すために合った材料や方法を選ぶ。(③視点2-[2])
- ・友達との関わり、自分の考えを深め、表現の多様性を感じ取る。

準備

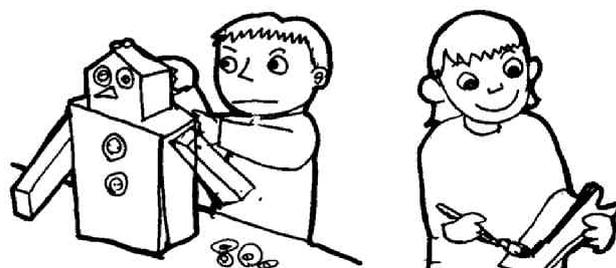
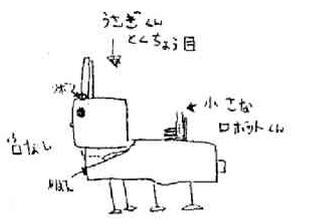
教師-材木(各種)・アクリル系塗料・のこぎり・金づち・釘・紙やすりなど
 児童-木工用ボンド・自分で集めた材料(ビーズ・ボタンなど)・汚れてもよい上着など

考察

やはり、「自分の『お願い!』をきいてくれる」という投げかけが魅力になり、子どもたちは飽きることなく熱中して活動していた。最後に子どもたちがまとめたカードを見ると多様な『お願い!』や、形の上での特徴があり、子どもによって異なる多様な表現が見られた。また、製作カードを読むと、明らかに『お願い!』から形を発想したものと、逆に形からロボットの特徴を考えたものがあり、子どもによって異なる過程を選択して完成に至っていることが明らかになった。材料の選択はもちろんであるが、主題の自己決定・学習過程の自己選択によって児童がより主体的に、より多様に表現できることが確かめられた。

② 視点2-[2] 自らが選ぶ機会を多く取り込むこと。

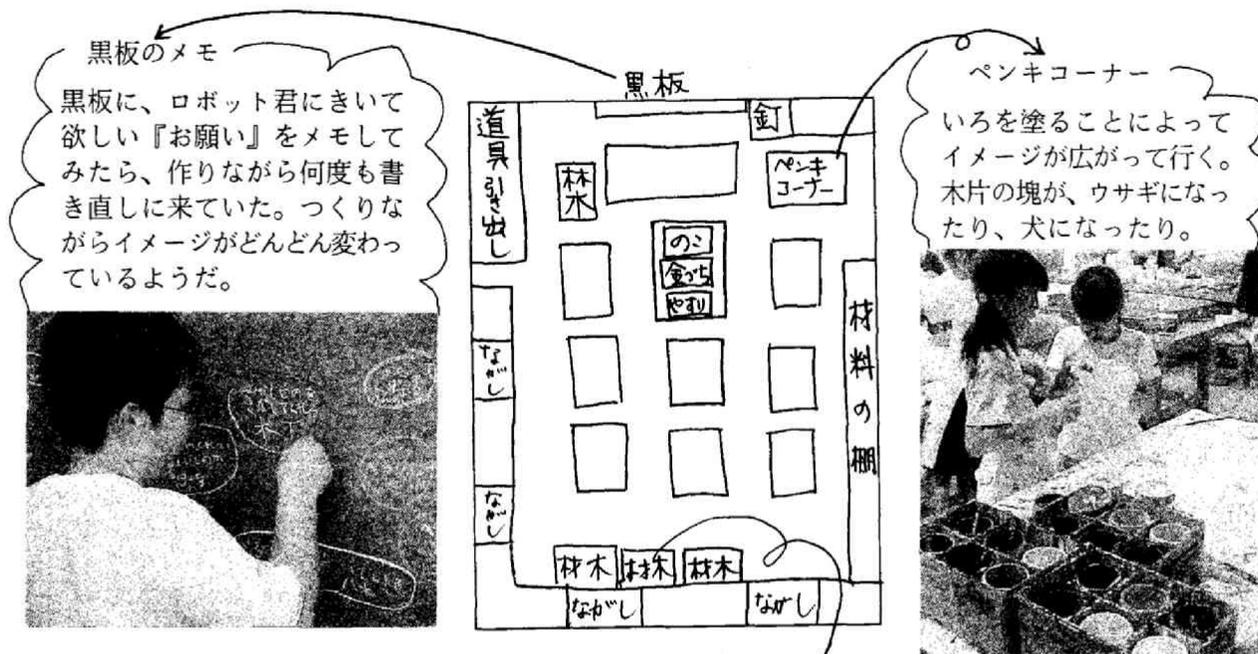
③ 視点2-[3] 自分の表現や活動を振り返るゆとりを保障すること。

イメージを深める	たしかめる
<p>「つくりながらもっと素敵になるように工夫しよう。はじめのアイデアと変わっていてもいいですよ」 「他に付け加えたい材料があったら自分で付け加えてみよう 色をつけ加えてもいいですよ」</p>	<p>「どんなロボット君ができたのか、カードにまとめてみよう」 「友達はどんなロボットをつくっているか見てみよう」</p>
<p>材料やつくる手順など選択を繰り返しながらはじめのアイデアを変化させたりして自分なりのイメージを深める 『ねがい』にあわせて形を決めたり、形からロボットの機能を決めたり子どもそれぞれの思考過程でイメージを深める (アイデアの変化に合わせてメモを書き加えても良い)</p>	<p>カードをまとめ、自分の活動を振り返る友達の表現に触れ、互いに認め合う</p> <p>「このロボットは一緒に遊んでくれるんだよ でも毎日ここからケーキを一個食べるの」 「T君のは車輪がついていてすごいね」</p>
<p>「首がはずせるから合体ロボにしよう」 「ボタンを目にしてみよう」 「かわいい色で飾ってみようかな。」 「ついでにロボットの家も作っちゃおう」</p> 	<p>「おねがい!ロボットくん!」</p> <p>ロボットくんはこんなヤツです。(絵と言葉で紹介)</p>  <p>ロボットくんのせいのは... (ぜんぶおねがいを聞いてくれる)</p> <p>うしろ目は 小さなロボットは 人とおして うしろ目には どまてていしてくる のりだけ。</p> <p>くふうしたところ、くふうしたところはどこですか?</p> <p>くふうしたところは うしろにみどりのボタンを付けたところ。 うしろ目には、ボタンは、</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・子どものイメージの変化を見取り、認める ・子どもどうし必要に応じて意識的に交流させる ・工夫のあるつくり方、考え方を全体に紹介する 	

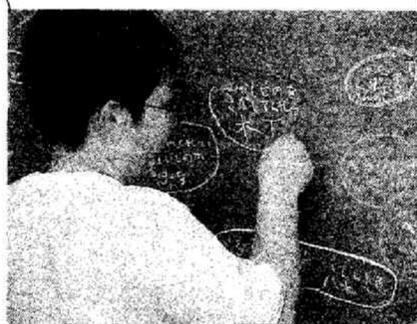
授業の様子より

教室のレイアウト⇒

子どもたちが活動しやすいように、よく使いそうな材料や道具を下の図のように配置した。子どもたちは、自分が使ったことのあるものについては熟知しており、自分の経験を生かして、積極的に活動していた。



黒板のメモ
黒板に、ロボット君に書いて欲しい『お願い』をメモしてみたら、作りながら何度も書き直しに来ていた。つくりながらイメージがどんどん変わっているようだ。



ペンキコーナー
いろを塗ることによってイメージが広がって行く。木片の塊が、ウサギになったり、犬になったり。



「これは探し物を見つけてくれるロボットなんだ。この巻き物に探し物のありかを書いてくれるの。」つくりながら発想が広がる。



「何があるかな？」材料の箱をのぞきこむ子。イメージにあう形の材料を探したり、材料の形からイメージをふくらませたり。



カード⇒

授業の最後に子どもが書いたカード。このカードを書きながら子どもたちも自分の思いをまとめているようだ。



6 題材名 「みつけたよ・つくったよ」 (1学年)

題材について

生活科「あきをさがそう」の単元で、公園に行って落ち葉を拾ったり、ドングリ拾いに夢中になったりと、秋の自然にひたって遊ぶ体験をした。その体験をもとに、紅葉した葉、木の実、秋の草花などのもつ色や形、感触を肌で感じながら表現欲求を刺激し、図画工作の造形活動へと発展させたいと考えた。

「きれいだなぁ」「おもしろい形だなぁ」と集めた物の形や色の感じなどを楽しみながら、「何かつくってみたい」と思いがふくらんでいく。さらに身近な材料や用具を自由に選択し、手で触れたり、試してみたりする場を設定することにより、子どもらしい想像が広がり、主体的に活動することができると考えた。

空容器に飾り付ける、画用紙に貼るなど、平面・立体にとらわれずに思いつくまま材料に働きかけて楽しく造形活動を進めたい。

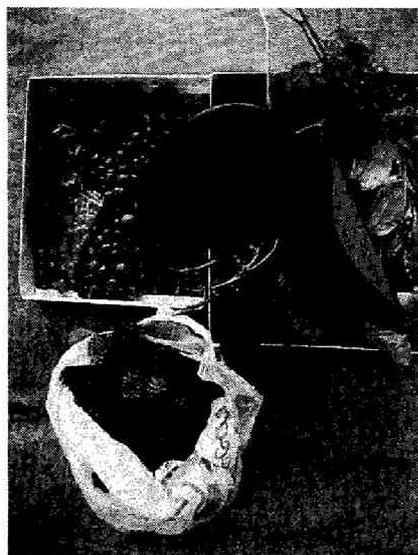
また、床全体を広く自由に使えるようにしたり、作品がすぐその場で鑑賞できるように展示場所を設定したりと、学習環境の工夫を図った。

ねらい

- ・自然物や身近な材料の形や色などを選び、楽しく表す。
- ・つくったものを見ながら、自分が感じたことを話したり、聞いたりする。

材料・用具

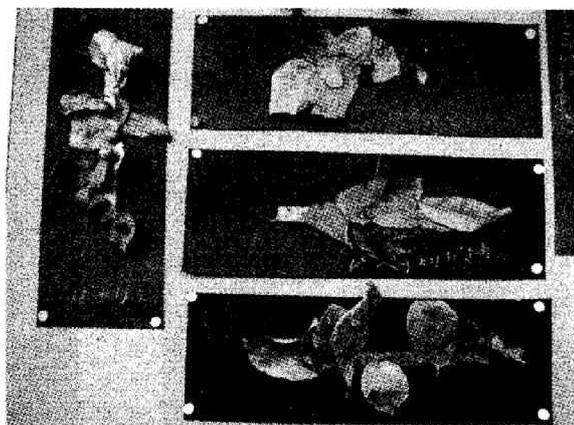
- ・子どもが集めた自然物……落ち葉、木の実、草花、木の枝など
- ・身近な材料や道具……画用紙、段ボール、空容器、紙粘土、油性フェルトペン、接着剤、セロハンテープ、クレヨン、パス など
- ・展示場所……パネル、机、テープ、画びょう



学習活動の流れ（2時間）

	で あ う	お も う
なげかけ	○どんなものを見つけてきたの ○さわってごらん。転がしてみよう ・どんな色している ・形や大きさはどうかかな ①	○あさがおのつるや松ぼっくりですきなものをつくったよね ○今日はいろいろな材料を用意しているからみんなで見よう ③
子どもの活動	①自分が見つけた落ち葉や木の実、秋の草花を見せ合う ♥公園にドングリがいっぱい落ちてたよ ♥校庭で赤や黄色の葉っぱを見つけたよ ♥庭にこんな花が咲いていたよ ②自然物の色や形、大きさ、手ざわりなどを確かめる ♥ざらざらするよ ♥ドングリはころころ転がるよ ♥いろいろな色があってきれい	③前時でリースをつくった経験を思い出す ♥松ぼっくりを針金でつないだよ ♥葉っぱをつなげたらきれいだったよ ♥つるをまきつけたよ ④身近な材料を見て、手で触れたり、どんなことができるか考えたりして、一人一人の思いを広げる ♥牛乳パックを使おうかな ♥木の実はどうやってくっつけようかな
支援	○机、床など活動しやすい広い場所を設定する	○既習体験を思い出させ、同じ材料を使ったり、他の材料を試したりして、身近な材料に進んで働きかけることができるようにする ① ○平面でも立体でも、思いついたことを自在に楽しく表現できるように、段ボール、画用紙、ペットボトル、牛乳パック、セロハンテープなどを用意しておく ②

- 石 表現のきっかけや手だて
- 波紋 多様な表現の広がり
- 視点 ①平面・立体にとらわれず一体化した扱いができる。
- ③材料や方法からの刺激や発信を受けとめられる。
- 視点 ①いろいろなことを試すことができる場を設定する。
- ②自らが選ぶ機会を多く取り込む。



つくる	つたえる・ふかめる
<p>○どんなものがつくれるかな</p> <p>○材料は何を使ってもいいよ</p>	<p>○みんなでつくったものを見よう</p> <p>○何をつくったのかな</p> <p>○どんなものを使っているかな</p> <p>○最後はしっかりと後始末をしよう</p>
<p>⑤自然物や身近な材料をもとに何をつくりたいか決める</p> <p>♥ドングリで楽器をつくってみたいなあ</p> <p>♥ゲームをつくりたいなあ</p> <p>⑥つくりたいものに合わせて形や色などを選び、楽しく活動する</p> <p>♥いい音がするよ</p> <p>♥ドングリのゲーム、楽しいよ</p>	<p>⑦つくったものを見ながら話し合う</p> <p>・どんな活動をしたか、何をつくったか発表する</p> <p>⑧後片づけをする</p>
<p>○友達と共同で活動することも考えられ、ふれ合いの場を大切にする</p> <p>○一人一人の活動の様子を見て、よさや工夫を認め、自信をもって生き生きと活動できるようにする</p> <p>○両面テープを貼る、針金を切る、木の実をくっつけるなど、作業が困難な時は援助する</p>	<p>○つくった物がその場で鑑賞できるように、パネルやテープ、机など展示場所を設定しておく</p>



考察

最初は、色や形に刺激され、手に持ちきれないほどたくさん材料を選んでしたが、つくっているうちに必要な材料といらぬ材料がわかり、返しにくる姿が見られた。

ペットボトルにドングリを入れて、「楽器だよ。」と言ってふる、木の実を筒の中で転がしてゲームをつくる、画用紙に落ち葉を貼って形をつくるなど、平面、立体にとらわれずに、思い思いの作品をつくり、楽しく活動できた。

Ⅲ 研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

(1) 多様な表現について認識を深めることができた

- ・〈平面で表す〉、〈立体で表す〉と、表現方法を限定して授業を計画するのではなく、個に応じた表現方法を大切にしながら実践の中で、子どもたちは、その子なりの表現に気づき、お互いのよさを認め合いながら意欲的に活動していた。

個々の実態に合わせて支援することの意味と、子どもの表現を幅広くとらえることの必要性を再確認することができた。

- ・それぞれが自分の主題をもちイメージを深めていける題材を提示したり、材料や方法から発想できるように働きかけることによって、アイデアをふくらませていく子どもの姿がみられた。
- ・試す場を設定したり自分で選び自分で決める機会を多く取り入れた実践を通して子どもの多様な活動がみられた。試しながらイメージを探る子・思いを貫こうと試行錯誤する子・思いきって方向転換する子・次々に浮かぶイメージを作品に生かそうとする子など、子どもによって異なる過程を経てつくりあげていた。表現の在り方を幅広くとらえるとは、製作過程を含めたものであることを認識し、保障していかななくてはならないと考える。
- ・実践を通して、子どもの表現の在り方を幅広くとらえる題材の工夫と、自己選択できる学習過程の工夫のどちらもが重なり合って、多様な表現を引き出し深めるということが認識できた。

(2) 環境の大切さを再確認することができた

- ・実践授業を積み重ねて行く中で、子どもと教師のかかわり、子ども同士のかかわりが授業の展開に大きく影響し、授業の活気を作り出していた。楽しい雰囲気、友達とのかかわり、認め合いなど、授業をとりまく精神的な環境が支えとなって教師の働きかけも生きてくるのである。
- ・材料、教室環境、場の設定、いずれもが自分で発想し表現を深めるための手がかりであり、環境づくりは一人一人の学習活動を活性化する大切な要素であることを確認した。

2 今後の課題

- ・平面と立体にとらわれない題材については、その大切さを考えて視点として取り上げたがさらに開発と工夫が必要である。
- ・研究の成果を踏まえ、自校の子どもたちの実態をとらえて、教師が自分の目の前で育ちいく子どもたちに寄り添った形にして授業展開を工夫していくことが必要である。
- ・教師と子どものかかわりについては、同じ時間を共にし、同じ教室の空気を吸ったひびきあいを大切にしていきたい。